

がんの中で女性が最もかかりやすい乳がん。山梨県立中央病院は新薬による治療を積極的に取り入れている。効果が見込まれる薬を見つけるため、患者の遺伝

も高かった。このタイプの乳がんは効く新薬として、県立中央病院は2022年にがん治療薬「免疫チェックポイント阻害剤」を導入したところ、がん細胞が消失していた事例が多く確認されるようになった。木村医師は「画期的な薬。今後

は再発する難治性の乳がん患者が減るのではないかと期待を込める。乳がんが再発した場合、患者から切除したがんの腫瘍や血液を使って「がん遺伝子パネル検査」を実施。結果を基に効果が見込める薬を探っている。5年ほど前から乳がん治療に関わる新薬の登場が相次ぎ、利用可能な薬が見つかることも増えてきた。

乳がん新薬治療を導入 ゲノム医療で生存率向上

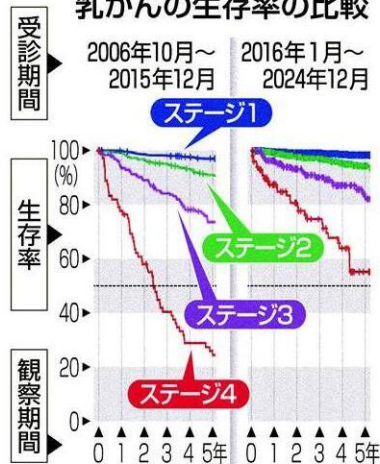
ブレーキを解除し、免疫細胞ががん細胞を攻撃する力を維持する仕組みだという。

一定の条件を満たす患者



木村亜矢子
乳腺外科部長

山梨県立中央病院 乳がんの生存率の比較



※山梨県立中央病院がん登録データを基に作成

木村医師は「今まで治療が難しかった患者でも長期生存ができる時代になってきた」と解説した。

◇ 「悩む女性へ」では、女性特有の病気について最新の治療法などを紹介する。Ⅱ第2、4火曜日に掲載します